

貧酸素水塊速報 (2019年)

【発行】 ○ 千葉県水産総合研究センター
神奈川水産技術センター
千葉県農林水産技術会議
内湾底びき網研究会連合会

【協力】 千葉県環境研究センター
第三管区海上保安本部
東京都環境局
(国)国立環境研究所

○ モニタリングポスト(海上保安庁, 国土交通省 関東地方整備局)
(今回の速報は“○”の機関の観測データを使用して作成しました)

令和元年7月1日観測結果

貧酸素水塊は、6月30日の南西風の影響で南下し、現在は内湾北部から中央部に分布しており、一部は中の瀬西側の深場にも波及しています(図1)。

縦断ラインの鉛直分布をみると、風の塔北側にはDO 0.5ml/L以下のほぼ無酸素の水塊が認められ、海底から5m程の厚みがあります(図2)。規模は直近10年の平均並みに拡大中です(図3)。

水温は表層22~23℃、底層18~22℃です。

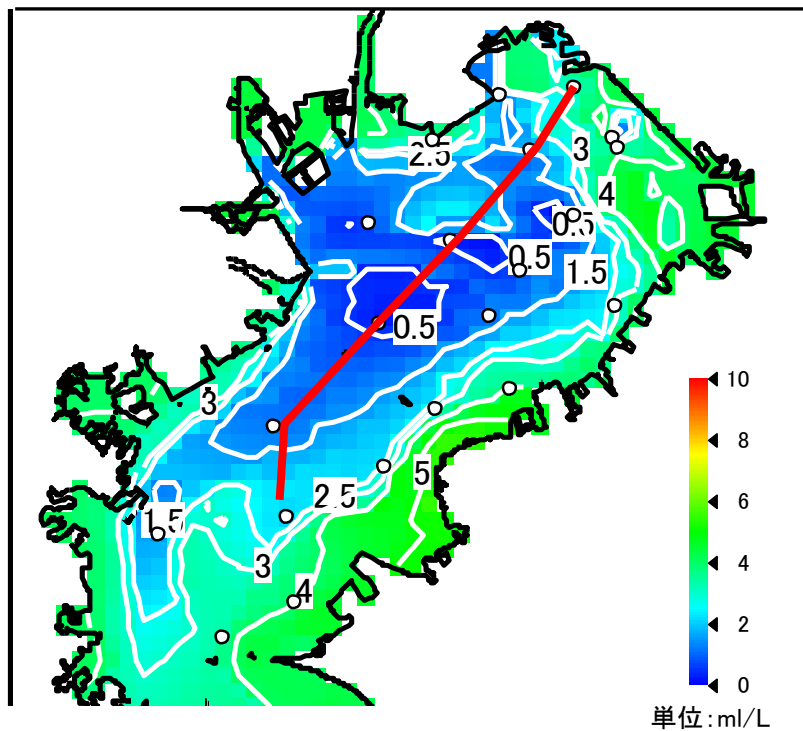


図1 底層の溶存酸素量分布(赤線は縦断ライン)

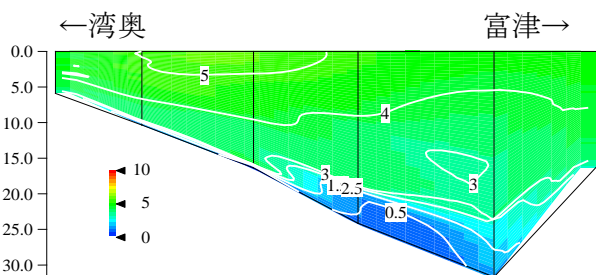


図2 縦断ラインでのDO鉛直分布

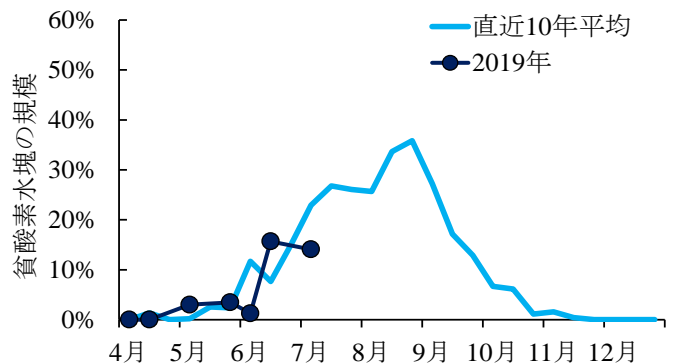


図3 貧酸素水塊の規模
(左図で貧酸素水塊(2.5ml/L以下)が占める割合)